

令和7年度 教職経験6年目研修の手引 (教諭)



問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ

〒690-0873 松江市内中原町255-1

TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ

〒697-0023 浜田市長沢町1550-1

TEL (0855)23-6782 FAX (0855)23-5059

島根県教育委員会

はじめに

初心忘るべからず

『花鏡』 世阿弥

「先生」と呼ばれるようになって、ずいぶん経ちました。教師の仕事にも慣れ、「実践的指導力」がずいぶん身に付いたと思います。

しかし、「実践的指導力」を身に付けたら、それで終わり・・・というわけではありません。「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（令和3年1月26日中央教育審議会）では、「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の教職員の姿として「教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。」と示されています。

この研修を通して、これまでの実践を振り返るとともに、その実践的指導力を基に、【探究・発展期】における教諭としての資質能力を高めていきましょう。

初心に戻って、一年間の研修に臨みましょう！



誰もが、誰かの、
たからもの。

島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。

そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達への支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期（1～5年目）】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期（6～15年目）】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期]（16年目～概ね25年目）】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期]（概ね26年目以降）】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

教諭等の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

キャリアステージ 資質能力		採用までに身に付けて おいて欲しいこと *2	自立・向上期 (1~5 年目)	探究・発展期 (6~15 年目)	充実・円熟期 (16~概ね 25 年目) (26 年目以降) 【前期】 *3 【後期】	
1 豊かな人間性と 職務に対する 使命感	①人間理解・ 人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。				
	②職務に対する 誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び 続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点をもち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。				
	③ふるさとを 愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。				
2 子どもの発達の 支援に対する 理解と対応 *1	④生徒指導の 推進	・発達段階を踏まえた子ども 理解・子ども支援、キャリア 発達など生徒指導に必要な 基礎理論・知識を習得し ている。	・子どもとのふれあいや観察 を通して、様々な行動の内に 潜む微妙な心の動き、キャリア 発達を共感的に受け止め、 良さや可能性を伸ばしながら、 学級等の集団づくりを進め ることができる。	・子どもの心身の発達やキャ リア発達に対する理解を深 め、個に応じた指導や学年 等の集団指導を実践するこ とができる。	・キャリア発達の視点をふま え、教職員と協働したり地 域社会や外部機関と連携 したりしながら、さまざま な場面をとらえて子ども が自分らしい生き方を実現 するための力を育成す ることができる。	・子どもに関わる様々な問題 やキャリア発達への対応力 を身に付け、学校の教育活 動全体を通した連携体制を つくりながら、子どもの自 己実現の達成をめざして支 援していくことができる。
	⑤特別支援教育 の推進	・特別な配慮や支援を必要と する子どもへの指導に関す る基礎理論・知識を習得し ている。	・特別な配慮や支援の必要な 子どもの実態把握を行い、 一人一人のニーズに応じた 指導や支援についての計画 を立て、実践することがで きる。	・特別な配慮や支援の必要な 子ども一人一人の支援計画・ 指導計画に基づき、学習上・ 生活上の支援の工夫、指導の 実践を行うことができる。	・特別な配慮や支援の必要な 子どもに組織的に対応す るための知識や方法を身 に付け、家庭や地域等と連 携することができる。	・校内での支援体制の構築や 関係機関及び異校種等との 連携など、特別支援教育を 組織的に推進することがで きる。
<全キャリアステージに共通した指標> ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、 教育活動を実践することができる。						
3 職務にかかわる 専門的知識・技能 及び態度	⑥教科等の指導 に関する専門 性	・教育課程の編成、教科等の 指導方法に関する基礎理 論・知識を習得している。	・教科等を学ぶ意義を踏まえ て指導計画を作成し、教科 等の指導を実践すること ができる。 ・子どもの心身の発達や学習 過程に関する理解に基づ いて、興味・関心を引き出 す教材研究をしたり、学習 者中心の授業となるよう 工夫したりすることがで きる。	・教科等の専門的知識及び技 能の習得に努めるととも に、カリキュラム・マネジ メントの意義を理解し、そ の視点をふまえて教科等 を相互に関連させながら 協働して授業研究を行う など意欲的に教育実践に 取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話 的で深い学び」の実現に向 けた授業改善に取り組む など、「個別最適な学び」と 「協働的な学び」の一体的 な充実に向けた授業を行 うことができる。	・教科等の専門的知識・技能 及び態度を高め続けるこ とができる。 ・教科等の相互関連や学校段 階間の円滑な接続を意識 した教育実践を行うこと ができる。 ・校内研修の中心的な役割を 担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能 及び態度をさらに高め、後 進に適切な助言を与えな がら、人材育成に取り組むこ とができる。
	⑦ICTや情報 の利活用 *4	・ICTを活用した授業デザ インを実現するための、ICT 活用に関する基礎的な知 識（情報モラルを含む） や基本的な技能を有してい る。	・今まで学んできた ICT 活用 や教育データ活用に関する 基礎的基本的な知識・技能 を教科等の指導や校務に積 極的に取り入れながら活用 することができる。	・教育データを整理・分析し 適切に業務に取り入れなが ら、ICTをより効果的 な形で活用することがで きる。	・時代に即応した知見を取り 入れつつ、さらに専門性の 向上をはかりながら、同僚 と連携・協働し、校内に広 めていくことができる。	・校務の情報化の推進に積極 的に参画するとともに、後 進に適切な助言を与えな がら育成することができ る。
	<全キャリアステージに共通した指標> ・学校における ICT 活用の意義を理解し、教育活動の中で効果的に活用するとともに、他の教職員と共有し広めてい くことができる。 ・子どもの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための授業実践を行うことができる。					
4 学校組織の一員として 考え行動する 意欲・能力	⑧社会の変化へ の対応	・新たな学びや教育課題に対 して、積極的に挑み試行錯 誤しながら粘り強く取り組 む意欲や探究心を有してい る。	・新たな学びや教育課題に対 して、適切な対応の仕方を 具体的に考え取り組むこと ができる。	・新たな学びや教育課題に対 して、適切な対応の仕方を 提案し、協働して取り組む ことができる。	・新たな学びや教育課題に対 して、長期的な見通しをも って組織的に取り組むこ とができる。	・新たな学びや教育課題に対 して、より幅広い視点に立 って自分自身をさらに向上 させていくことができる。
	⑨学校組織 マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・ 経営的理解に必要な基礎理 論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己 目標を立て、その達成に向 けて取り組むことができ る。	・組織の一員としての役割を 理解し、学校の課題に対応 することができる。	・スクールリーダーとしての 自覚や責任を持つるとも に、企画力や調整力を発揮 して教育活動を円滑に進め ることができる。	・学校教育目標の達成を目指 し、学校の運営・指導体制 構築に積極的に参画するこ とができる。
	⑩他者との 連携・協働	・集団で活動する際、自己を 成長させようとする意欲や 態度を有している。	・他の教職員の意見を活かし ながら、自らの役割に応じ て行動することができる。	・経験豊かな教職員から多く のことを学ぶとともに、同 僚と連携・協働しつつ、後進 に助言を与えるなどして育 成にも目を向けることがで きる。	・他の教職員の役割分担や業 務の進捗状況を把握・調整 しながら、相互に支えあ う体制づくりができる。	・職場の同僚性が発揮でき るような雰囲気づくりをする とともに、後進を育成する 観点を持ちながら組織を動 かしていくことができる。
5 よりよい社会をつ くするための意欲・ 能力	⑪地域資源の活 用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地 域社会に貢献することにつ いて、自分なりの考えや意 欲を有している。	・子どもと地域社会をつなご うとする意欲を持ち、地域 と連携した学校教育活動を 計画に基づいて実践するこ とができる。	・学校外の様々な地域資源や 機会を活用し、地域と連携 した学校教育活動を効果的 に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との 連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や 調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができ る。	
	⑫合意形成に向 けた議論の調 整・促進	・子ども同士の話し合いの場 面において、適切に働きか ける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究 していく活動を円滑に実践 することができる。	・現実の社会や地域との関わり を意識しながら、子ども 同士が議論をしたり、合意 形成を図ったりするよう促 すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある 地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進すること ができる。	

*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

目 次

はじめに

島根県の教職員として求められる資質能力

島根県公立学校教育職員の育成指標

教職経験6年目研修（教諭）の概要

教職経験6年目研修（教諭）実施要項	1
目的、研修の対象者	3
研修期間と認定、所属教育センター、校内の指導体制、研修内容	4
研修計画、研修報告	7
提出物、提出方法及び締切日、その他	8
教職経験6年目研修（教諭）様式	9
様式1 令和7年度教職経験6年目研修計画書	11
様式2 令和7年度教職経験6年目研修報告書	12
教職経験6年目研修（教諭）年間計画	15
6年目研修の目的	17
校内指導体制	18
研修内容	19
年間計画（前年度3月下旬～2月）	20
教職経験6年目研修（教諭）授業づくり	25
授業づくり	27
授業づくりのねらいと考え方	29
授業づくりのプロセス（単元・題材づくり）	30
授業づくりのプロセス構想シート（記入例）	38
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】（記入例）	40
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】（記入例）	42
授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】（記入例）	44
授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】（記入例）	46
研究授業振り返りシート（参考様式）	48
学習評価	49
研修情報システムの操作方法	50
研修に役立つ資料	58

教職経験6年目研修（教諭）の概要

島根県公立学校教育職員 人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から15年目までの10年間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

【目的】

- ・得意分野を開発・探究していく
- ・児童生徒等の理解を深め、適切に対応できる方法を身に付ける
- ・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の向上を図る

研修の概要確認（前年度3月下旬）

教職経験6年目研修についての「スタートガイド動画」をオンデマンドで視聴する。

研修計画等（4月～5月）

- ・計画書[様式1]をもとに島根県教職員評価システムの年度当初面接等にて校長からのアドバイスを受け、1年間の研修計画を立てる。
※計画書の提出
- ・6年目選択研修を申し込む。

研修内容（4月～2月）

OJT 研修

■授業づくり

- 自己目標の達成に向けた授業実践
- 授業研究
 - ・学習指導案（単元・題材の指導計画と評価計画を含む）作成、審議
 - ・研究授業、研究協議

Off-JT 研修

■教育センター研修

- ・6年目選択研修
- ・オンデマンド研修

研修報告（2月）

報告書等の作成、校長への研修報告
※報告書の提出

次年度の取組

教職経験 6 年目研修 (教諭)

実施要項

目 次 （実施要項）

教職経験6年目研修（教諭）実施要項

目的、研修の対象者	3
研修期間と認定、所属教育センター、校内の指導体制、研修内容	4
研修計画、研修報告	7
提出物、提出方法及び締切日、その他	8

この手引では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター浜田教育センター	浜田教育センター
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム
校内で管理職を除いた3名以上（対象者を 含む）のメンバーからなるチーム	チーム
分校、分教室、乃木校舎	分教室

教職経験6年目研修(教諭)実施要項

Ⅰ 目 的

教職経験年数に応じた研修の一環として、1年間の実践的な研修を通して、教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の向上を図る。

2 研修の対象者

- (1) 公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教諭のうち、令和6年度末に教職経験年数が5年以上の者で、教職経験6年目研修をまだ受講していない者。

なお、対象となる者のうち、令和7年度に教職経験6年目研修を受講する者を「受講者」とする。

※教職経験年数の計算にあたっては、島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での教職経験年数も含める。

- (2) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になってから受講する。

ア 行政機関

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

- (3) 以下の者は、研修を免除する。

ア 他の任命権者が実施する教職経験6年目研修に相当する研修を修了した者

イ 当該年度に、兵庫教育大学・島根大学等大学院派遣研修に派遣されている者

※ただし、学校勤務になってから受講することもできる。なお、教職大学院派遣研修を修了できなかった場合は、学校勤務になってから受講する。

ウ 当該年度に行政機関において、学校教育（学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等）に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者

エ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3 研修期間と認定

- (1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。
- (2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。

※ 年度途中で受講者の研修の継続に困難な状況が生じた場合、校長は所属教育センターに連絡する。

4 所属教育センター

島根県教育センター	浜田教育センター
松江・出雲・隠岐教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭 ○義務教育学校教諭 松江・出雲・隠岐地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭	浜田・益田教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭 大田・浜田・益田地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭 ※分教室の教諭は、本校の所属教育センターに所属するものとする

5 校内の指導体制

- ・校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。
- ・校長は、校内で管理職を除いた3名以上（受講者を含む）からなるチームを編成する。
- ・チームのメンバーは、校内で受講者を支え、互いの資質能力の向上を図る。

6 研修内容

- (1) OJT研修（日常の教育活動を通して、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修）

ア 授業づくり（通年）

〔ねらい〕

1年間を通じて、児童生徒が身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業づくりに取り組み、授業力の向上を図る。

〔内容及び方法〕

- ・授業づくりの自己目標を設定する。
- ・1年間を通じて、授業づくりの自己目標の達成に向けた授業実践を行う。
- ・授業研究（1回以上）を実施する。

※学習指導案（単元・題材の指導計画と評価計画を含む）を作成して実施し、提出は1回分とする。

※「研究授業前の学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う。

※管理職等を含む複数の教員で、ねらいに基づいた視点で協議を行う。

(2) Off-JT研修(日常の職務を離れて、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修)

ア 教育センター研修

(ア) 6年目選択研修

[ねらい]

自ら選択した研修に参加することで、教諭としての得意分野を開発・探究し、資質能力の向上を図る。

[内容及び方法]

- ・県教育委員会が実施する研修(『令和7年度島根県教職員研修計画一覧表』に記載されている研修)から1つ自ら選んで参加する。
- ・職務研修又はテーマ研修を選ぶ場合は、「希望者に受講を認める場合あり」としている研修を希望して受講する場合に限る。
- ・担当している校務分掌の職務等により、自身が必修の対象となっている研修とは別に選んで受講する。なお、数理解採用者は必修の研修とは別に選んで受講する。
- ・研修の申し込みは、研修情報システムの学校Page又はMyPageから行き、4月11日(金)までとする。なお、申込入力画面の備考欄に【6年目選択研修】と記入する。
- ・旅費については、市町村立学校は「指定旅費」で対応し、旅費請求書備考欄に【6年目選択研修】と記入する。県立学校は「学校管理運営費(指定研修分)」で対応し、総務事務システムの用務内容の欄に、参加する研修名及び【6年目選択研修】を併記する。

(イ) オンデマンド研修

[ねらい]

児童生徒等理解を深め、同僚と協力して、学校課題に対応する資質能力の向上を図る。

[研修方法]

- ① 研修情報システム MyPage[研修動画]から、オンデマンド研修動画を視聴する。
- ② 研修場所は、所属校又は校長が指定した場所とする。
- ③ 研修後、「理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくか」について、研修情報システムMyPage[アンケート]から回答する。

[内容]

- ・オンデマンド研修動画をすべて視聴する。

※視聴期間は、令和7年7月1日(火)から令和8年1月30日(金)までとする。

[研修項目別の目的と内容]

研修項目	目的と内容
教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア) 教育法規等についての理解 (イ) 事例から学ぶ
人権教育	幼児児童生徒の背景にある実態に気付く力を身に付け、学校組織の一員として学びの保障を推進する意欲を高める。 (ア) 島根が目指す人権教育の理念に基づく取組の実践 (イ) 同和問題をはじめとする様々な人権課題の理解
生徒指導・教育相談	生徒指導上の喫緊の課題について考え、対応するために必要な事項について理解する。 (ア) 生徒指導上の課題の理解と対応
特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について学び、児童生徒等一人一人のニーズに応じた適切な指導と必要な支援について理解を深める。 (ア) インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (イ) 児童生徒等の実態把握とその支援
キャリア教育	キャリア・パスポートの目的・意義及び基本的な活用方法について理解を深め、実践力の向上を図る。 (ア) キャリア・パスポートの目的・意義 (イ) キャリア・パスポートの基本的な活用方法
教育の情報化	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ) 教育情報セキュリティ
ICT 活用実践紹介	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた ICT 活用(児童生徒 1 人 1 台端末)について実践事例を通して理解し、ICT活用指導力の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力を発揮した教科(等)の学びの実際

7 研修計画

(1) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度当初面接等を利用し、受講者と面談を行う。
- ・校長は、受講者の資質能力や課題、得意分野、授業づくりの自己目標等を聴取するとともに、受講者に対する今年度の育成方針を伝え、共通理解を図る。

(2) 計画書の作成

- ・受講者は、管理職と相談しながら研修計画を立て、計画書[様式1]を作成し、PDFファイルにて校長に提出する。

(3) 計画書の提出

- ・校長は、受講者から提出された計画書[様式1]を、研修情報システム学校Page[報告書提出]からPDFファイルで提出する。

8 研修報告

(1) 校長面接

- ・校長は、島根県教職員評価システムにおける年度末面接等を利用し、受講者と面談を行う。
- ・校長は、受講者の資質能力について向上したところ、取組の成果や課題、今後への期待などを受講者に伝える。

(2) 報告書等の作成

- ・受講者は、校長面接で受けた指導・助言等をもとに報告書[様式2]を作成し、学習指導案(1回分、単元・題材の指導計画と評価計画を含む)と共に、PDF ファイルにて校長に提出する。

(3) 報告書等の提出

- ・校長は、受講者から提出された報告書[様式2]及び学習指導案を、研修情報システム学校Page[報告書提出]からPDFファイルでそれぞれ別々のフォルダに提出する。

9 提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法		締切日
			研修情報システム		
			My Page	学校 Page	
①	様式1	計画書		○	令和7年5月29日(木)
②	－	オンデマンド研修アンケート	○		令和8年2月26日(木)
③	様式2	報告書		○	
④	－	学習指導案(単元・題材の指導計画と評価計画を含む)		○	

※上記の一覧表を参照し、校長の指導、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出する。

※受講者は、②を研修情報システム MyPage[アンケート]から回答する。

※受講者は、①③④を校長に提出する。

※校長は、①③④を研修情報システム学校 Page[報告書提出]からそれぞれ別々のフォルダに提出する。

※著作権、個人情報及び肖像権等に十分配慮する。

10 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるように努める。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

教職経験 6 年目研修 (教諭)

様 式

島根県教育センター所長 様
(島根県教育センター浜田教育センター長 様)

〇〇 学校長 〇〇〇〇

令和 7 年度 教職経験 6 年目研修 計画書

1 受講者

職名	教諭	氏名		研修用 個人番号※		授業づくり の教科等	
----	----	----	--	--------------	--	---------------	--

※年度当初に研修情報システム MyPage によって連絡する名簿に記載されている 3 桁の番号のこと。(8 桁の職員番号ではない)

2 研修計画

(1) O J T 研修

ア 授業づくり

授業づくりの自己目標

--

授業研究

研修内容	実施予定日	校内の指導助言者等※
学習指導案審議	月 日	
研究授業	月 日	
研究協議	月 日	

※「校内の指導助言者等」については、「〇〇校長」「〇〇教頭」「〇〇学年主任」「〇〇研究主任」「〇〇教諭」「〇〇教科主任」のように、「〇〇」に名字を入れて記載する。

(2) O f f - J T 研修

ア 6 年目選択研修

研修番号	研修名	受講予定日
		月 日

イ オンデマンド研修

研修内容	視聴予定月	研修内容	視聴予定月
教職員の倫理と服務	月	キャリア教育	月
人権教育	月	教育の情報化	月
生徒指導・教育相談	月	ICT 活用実践紹介	月
特別支援教育	月		

※PDF ファイルに変換し、ファイル名を、

研修用個人番号(半角英数字)・6 年研・計画書・学校名・氏名 として提出する。

ファイル名(例) 111・6 年研・計画書・〇〇中・〇〇〇〇

島根県教育センター所長 様
(島根県教育センター浜田教育センター長 様)

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和 7 年度 教職経験 6 年目研修 報告書

1 受講者

職名	教諭	氏名	研修用 個人番号※
----	----	----	--------------

※年度当初に研修情報システム MyPage によって連絡する名簿に記載されている 3 桁の番号のこと。
(8 桁の職員番号ではない)

2 研修の実施状況

(1) O J T 研修

授業研究

研修内容	実施日
学習指導案審議	月 日
研究授業	月 日
研究協議	月 日

(2) O f f - J T 研修

ア 6 年目選択研修

研修番号	研修名	研修月日
		月 日

イ オンデマンド研修

研修内容	視聴月	研修内容	視聴月
教職員の倫理と服務	月	キャリア教育	月
人権教育	月	教育の情報化	月
生徒指導・教育相談	月	ICT 活用実践紹介	月
特別支援教育	月		

3 授業づくりの振り返りと今後の見通し

(1) 授業づくりの自己目標 (計画書作成時に設定したもの・変更可)

(2) 成果と課題

4 今後、伸ばしたい資質能力

※本報告書は2ページ程度にまとめる。

※活用したアンケート用紙、ワークシート等があれば添付してもよい(教科書等の複製は不可)。

※個人情報や肖像権等に十分配慮する。

※PDFファイルに変換し、ファイル名を、

研修用個人番号(半角英数字)・6年研・報告書・学校名・氏名 として提出する。

ファイル名(例) 111・6年研・報告書・〇〇中・〇〇〇〇

教職経験 6 年目研修 (教諭)

年間計画

目 次 （年間計画）

6年目研修の目的	17
校内指導体制	18
研修内容	19
前年度3月下旬	
教職経験6年目研修についての「スタートガイド動画」を視聴する	20
4月	
教職経験6年目研修を受講することを校長に報告する	20
4月～5月	
6年目研修に係るチームをつくる	20
チーム、管理職等からの指導・助言を受けながら	
「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を作成する	21
「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を研修情報システムから提出する	21
「6年目選択研修」の研修申込をする	21
4月～2月	
自己目標の達成に向けた授業実践に取り組む	22
6年目選択研修を受講する	22
すべてのオンデマンド研修動画を視聴し、	
オンデマンド研修アンケートに回答する	22
2月	
「教職経験6年目研修報告書[様式2]」を記入し、	
研修成果等を校長に報告する	23
報告書等を研修情報システムから提出する	23

6 年目研修の目的

さあ、教師としての「探究・発展期」がスタートしました。そのスタートにあたり、今年度は6年目研修で自己の資質能力をさらに高めましょう。

《6 年目研修ではどんな力を高めるの?》



6年目研修は、1年間の実践的研修を通して、以下の3つの力を高めることを目的として行います。

- ・得意分野を開発・探究する力
- ・児童生徒等の理解と適切に対応する力
- ・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する力

・「一つの道を極めた者は全ての道に通じる」という言葉があります。自分の得意分野での授業研究を深め、探究していくことは、今後の教科指導(特に小学校は複数教科の指導)に生かされることになります。



・これまでの5年間、1時間1時間の授業に一生懸命取り組んでこられたことと思います。その授業を振り返ってみたとき、児童生徒の実態を踏まえた授業ができていたでしょうか。児童生徒が身に付けている資質・能力を把握し、その資質・能力をさらに伸ばすことができる授業を展開したいものですね。

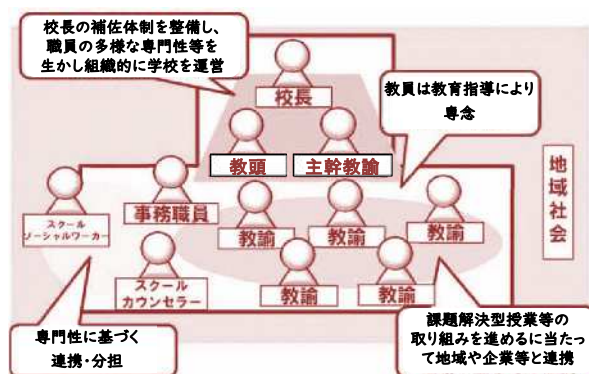
・担任(担当)だけで学級経営をすることはできません。また、学校課題に目を向けないまま教育活動を進めることもできません。学校組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学級経営・学校運営に関わることで、子どもたちの成長があり、学校課題の解決につながっていきます。

これら3つの力を、6 年目研修を通して身に付けます。

校内指導体制

「チームとしての学校」をつくり上げていくことが大切だと言われています。学校の教育活動を展開していくためには、教職員をはじめ多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担して行うことが求められています。

チームとしての学校とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、児童生徒等が生きていくために必要な資質・能力を確実に身に付けることができる学校なのです。したがって、6年目研修においても、受講者一人ががんばるのではなく、チーム学校として連携し、受講者を支え、教職員が互いの資質能力を向上できるようにしていくことが、これからの学校教育を展開していくうえでも大切なのです。



6年目研修における校内指導体制

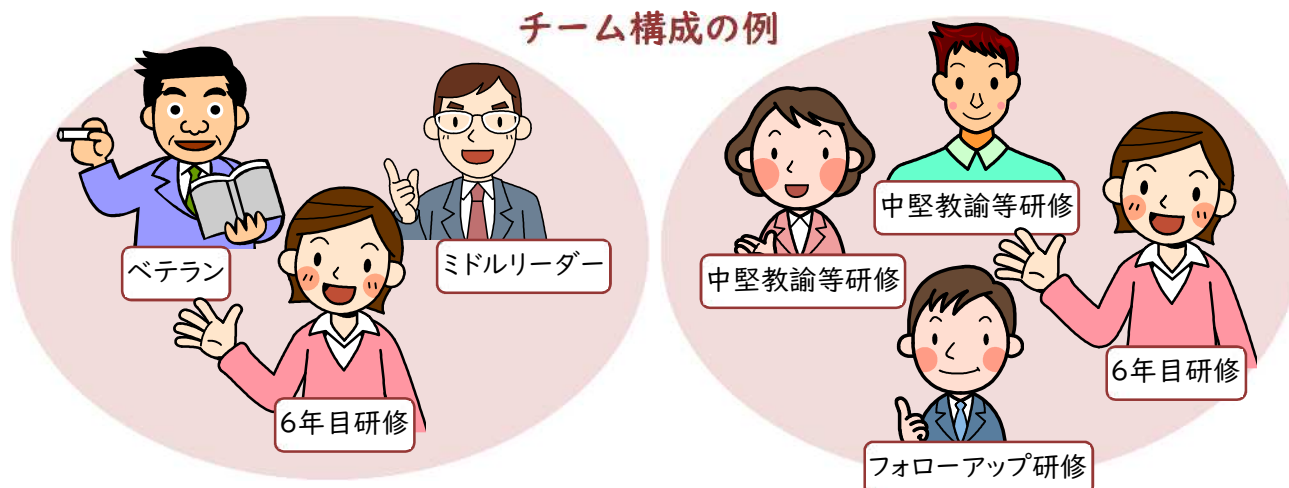
〔校長〕

- ・学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。

〔6年目研修チーム〕

- ・1年間を通じて校内で管理職を除いた3名以上（受講者を含む）のメンバーからなるチームで、受講者を支え、互いの資質能力の向上を図る。

チーム構成の例



研修内容

6年目をむかえた皆さんは、教師としての仕事もわかり、教育の情熱も高まってきているころでしょう。管理職や先輩・同僚から教えてもらうこともたくさんありますが、自らの資質能力を自分で高めていく研修（自己研鑽）が望まれます。また、後輩の相談相手に乗ったり、アドバイスをしたりすることも積極的に行いましょう。

《6年目研修ではどんなことをするの？》

6年目研修では、以下の2つの研修があります。

OJT研修

日常の教育活動を通して、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修

■授業づくり

- 自己目標の達成に向けた授業実践
- 授業研究
 - ・学習指導案（単元・題材の指導計画評価計画を含む）作成、審議
 - ・研究授業、研究協議

Off-JT研修

日常の職務を離れて、計画的・重点的に職務に必要な資質能力の向上を図る研修

■教育センター研修

- 6年目選択研修※
- オンデマンド研修

※「6年目選択研修」とは、以下の研修を示します。

・県教育委員会が実施する研修（『令和7年度島根県教職員研修計画一覧表』に記載されている研修）から1つ自ら選んで参加するもの。

- ①職務研修又はテーマ研修を選ぶ場合は、「希望者に受講を認める場合あり」としている研修を希望して受講する場合に限る。
- ②担当している校務分掌の職務等により、自身が必修の対象となっている研修とは別に選んで受講する。

前年度3月下旬

教職経験6年目研修についての「スタートガイド動画」を視聴する

【前年度3/31までに】

- ・教職経験6年目研修の目的、研修内容等について、「スタートガイド動画」(オンデマンド)を視聴する。

※「スタートガイド動画」の視聴方法については、P52を参照する。

4月

教職経験6年目研修を受講することを校長に報告する

- ・4月1日までに、自分が教職経験6年目研修の受講者であることを、校長に報告する。

4月～5月

6年目研修に係るチームをつくる

- ・1年間を通じて、管理職を除いた3名以上(受講者を含む)のメンバーからなるチームで受講者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

※チームメンバーに管理職は入れない。

[チーム編成の例]

(ア) 6年目研修受講者が最年少者の場合のチーム編成

- ・幅広い年齢層でチームを編成し、それぞれの得意分野や経験からのアドバイスを受ける。

(イ) 中堅教諭等資質向上研修やフォローアップ研修等の受講者がいる場合のチーム編成

- ・お互いの研修内容を関わらせながら、研修効果を高める。

(ウ) (ア)(イ)の混合チーム編成

- ・(ア)(イ)のよいところを取り入れ、チーム全体の資質能力の向上を図る。

(エ) 学校の課題解決(校内研究テーマの追究)に沿ったチーム編成

- ・学校の研究テーマとリンクさせ、6年目研修によって校内研究を深める。

など、学校や受講者の実態に応じたチームを編成する。



チーム、管理職等からの指導・助言を受けながら「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を作成する

- ・「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を作成する。
- ・計画書を作成するにあたり、チームメンバー、管理職等から指導・助言を受ける。
※教職員評価システムの年度当初面接等を活用し、校長のアドバイスを計画に生かす。

[記入上の注意点]

- ・「2(1)OJT 研修 ア 授業づくり 授業づくりの自己目標」については、1年間を通して「児童生徒が身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業」を目指すことを踏まえて記載する。
- ・「2(1)OJT 研修 ア 授業づくり 授業研究」については、「実施予定日」並びに「校内の指導助言者等」を記載する。
- ・「2(2)Off-JT 研修 ア 6年目選択研修」については、参加する研修名と受講予定日を記載する。
- ・「2(2)Off-JT 研修 イ オンデマンド研修」については、視聴予定月を記載する。

「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を研修情報システムから提出する

【5/29 提出締切】

- ・「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を作成し、PDF ファイルに変換した後、校長に提出する。
- ・校長は、「教職経験6年目研修計画書[様式1]」を5月29日(木)までに、研修情報システム学校 Page[計画書提出]から提出する。
※提出方法については、P56を参照する。

「6年目選択研修」の研修申込をする 【4/11 申込締切】

- ・県教育委員会が実施する研修(『令和7年度島根県教職員研修計画一覧表』に記載されている研修)から1つ選び、研修情報システム学校 Page 又は MyPage から申込を行う。
※職務研修又はテーマ研修を選ぶ場合は、「希望者に受講を認める場合あり」としている研修を希望して受講する場合に限る。
※担当している校務分掌の職務等により、自身が必修の対象となっている研修とは別に選んで受講する。なお、数理枠採用者は必修の研修とは別に選んで受講する。
※申し込みの際、備考欄に【6年目選択研修】と必ず記載する。記載することで、優先的な受講につながる。
- ※4月11日(金)までに申し込みをしなかった場合、能力開発研修は実施日 2 か月前までの申し込みは可能だが、優先的な受講につながらないこともある。
- ※「6年目選択研修」として申し込みをした研修でも、定員を超えた場合等には、希望した研修を受講できない場合がある。
- ※締切日までに希望した研修を受講できない場合は、5月末までに島根県教育センターから連絡が入る。その場合は、他の研修を「6年目選択研修」として再度申し込む。
- ※申込方法については、P53を参照する。

4月～2月

自己目標の達成に向けた授業実践に取り組む

- ・1年間を通して、「自己目標の達成に向けた授業実践」に取り組む。
- ・報告書[様式2]の「3 授業づくりの振り返りと今後の見通し 及び 4 今後伸ばしたい資質能力」は、1年間の授業実践を通した内容について記載する。
- ・指導主事に相談したいこと等があれば、島根県教育センターへ連絡をする。
※教科等の担当指導主事については、4月中に教育センターから各受講者へ研修情報システム MyPage に連絡する。

[学習指導案作成、審議]

- ・学習指導案(単元・題材の指導計画と評価計画を含む)を作成する。
※必要に応じて、「授業づくりのプロセス構想シート」を活用する。記載例については P38～47 を参照する。
- ・学習指導案審議の機会を設け、単元(題材)を通した授業実践を行う。

[研究授業、研究協議]

- ・授業後、研究協議を実施する。
※必要に応じて「研究授業振り返りシート[参考様式]」(P48)を活用する。

6年目選択研修を受講する

- ・「6年目選択研修」を受講する。
※旅費については、市町村立学校は「指定旅費」で対応し、旅費請求書備考欄に【6年目選択研修】と記入する。県立学校は「学校管理運営費(指定研修分)」で対応し、総務事務システムの用務内容の欄に、参加する研修名及び【6年目選択研修】を併記する。

すべてのオンデマンド研修動画を視聴し、オンデマンド研修アンケートに回答する

【視聴期間 7/1(火)～1/30(金)】【アンケート回答締切 2/26(木)】

- ・オンデマンド研修動画(計7項目)を視聴する。
※視聴方法については、P52を参照する。
※視聴期間は令和7年7月1日(火)から令和8年1月30日(金)までとする。
- ・オンデマンド研修は所属校又は校長が指定した場所で受講する。その際、研修時間に校務を割り当てない。
※校内においては、出張と同様な対応をしてもらう。
- ・オンデマンド研修動画視聴後、研修情報システム MyPage から「オンデマンド研修アンケート」に回答する。
※アンケート回答方法については、P55を参照する。
※回答締切は、令和8年2月26日(木)とする。
※アンケートは「理解できた内容や意識の変容、実践にどう生かしていくか」という視点から、すべての研修動画についてまとめて記載する。

「教職経験6年目研修報告書[様式2]」に記入し、研修成果等を校長に報告する

- ・「教職経験6年目研修報告書[様式2]」のすべての項目を記入し、教職員評価システム「自己評価」とともに校長に提出する。
- ・教職員評価システム年度末面接等を活用し、1年間の研修の成果等を報告する。

報告書等を研修情報システムから提出する【2/26 提出締切】

- ・校長は「教職経験6年目研修報告書[様式2]」及び学習指導案(1回分、単元・題材の指導計画と評価計画を含む)を、PDF ファイルで研修情報システム学校 Page[報告書提出]から提出する。
※提出方法については、P56を参照する。

教職経験 6 年目研修 (教諭)

授業づくり



目 次 （授業づくり）

授業づくり.....	27
授業づくりのねらいと考え方.....	29
授業づくりのプロセス〈単元（題材）づくり〉.....	30
授業づくりのプロセス構想シート（記入例）.....	38
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】（記入例）.....	40
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】（記入例）.....	42
授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】（記入例）.....	44
授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】（記入例）.....	46
研究授業振り返りシート（参考様式）.....	48
学習評価.....	49
研修情報システムの操作方法.....	50
研修に役立つ資料.....	58

授業づくり

年間を通じて以下のテーマを意識した研修に心がけましょう。

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる。



授業研究

・授業実践及び協議（1回以上）※学習指導案審議、研究授業、研究協議を行う

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点（●は重点）

	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
「授業づくり」におけるねらい	育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる。	教科横断的な視点に立った資質・能力※を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる。 ※「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」及び「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」等のこと
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
構想力及び生徒理解力	指導のねらい	●学習指導要領に示された児童生徒等が学習前に身に付けてきている資質・能力を踏まえ、児童生徒等の実態を把握する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた育成する資質・能力を踏まえ、単元（題材）において育成する資質・能力を明確にする。	●学校教育目標と教科等の指導内容の系統性、他教科等との関連性を踏まえ、育成する資質・能力を明確にする。
	指導計画	●児童生徒等の主体的・対話的で深い学びが実現される学習活動を設定する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた資質・能力を踏まえ、目指す資質・能力を育成するための単元（題材）計画等を構成する。	●他教科等との関連性や資質・能力の系統性を踏まえ、教科等が目指す資質・能力を育成する授業を行う。
	・児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせる授業を計画する。		・児童生徒等が教科等の見方・考え方を働かせる授業を行う。
	学習評価	●単元（題材）の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価場面や方法を工夫し、資質・能力を育成するための学習指導に活かす。	●単元（題材）の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価の場面や方法を工夫し、教科横断的な視点に立った資質・能力を育成するための学習指導に活かす。
指導力	・学び合う集団づくりに努める。（学習規律、安心して学習できる場） ・児童生徒等の発達の段階を踏まえた支援を行う。（個々のニーズに応じた指導や支援、ユニバーサルデザインの視点） ・指導技術を高める。（発問、言葉かけ、板書、教材・教具、ICT活用、学習形態等）		
情熱・使命感	・多様な価値観を尊重する。 ・新しい教育情報等を進んで得ようとする。 ・他者から学ぶ。（同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から）		

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点＜ 道徳・特別活動・自立活動＞（●は重点）

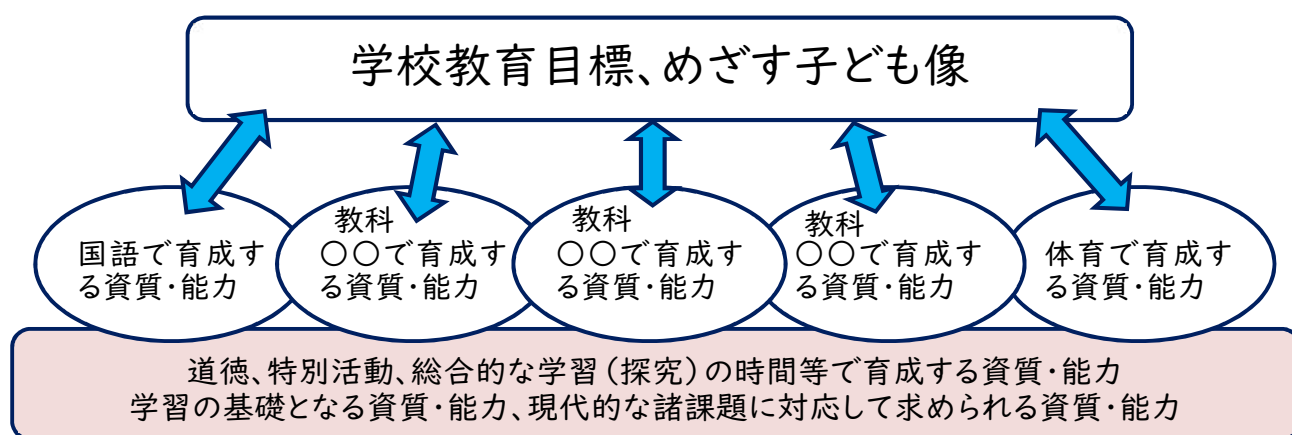
	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす 子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす。 ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
道徳科に おけるねらい	考えさせたい道徳的諸価値を踏まえ、指導の意図を明確にした授業ができる。	児童生徒の実態を把握し、道徳科の目標に迫る授業ができる。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を踏まえ、道徳科の目標に迫る授業ができる。
特別活動に おけるねらい	特別活動で育成したい資質・能力を明確にした授業ができる。	児童生徒等の実態を把握し、特別活動の目標に迫る授業ができる。	教科横断的な視点に立った資質・能力を踏まえ、特別活動の目標に迫る授業ができる。
※本研修の「授業づくり」における特別活動の授業とは、『学級活動』をさす。			
自立活動に おけるねらい	児童生徒を主体として、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	児童生徒等の実態を的確に把握して指導目標を設定し、単元（題材）の目標に迫る授業ができる。	育成すべき資質・能力を支える自立活動という視点を持ち、指導目標に迫る授業ができる。

授業づくりのねらいと考え方

これまでの授業を振り返り、「探究・発展期」を充実させて、
教師としての資質能力の向上を図りましょう！

1年かけてめざす姿

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる



- (1) 所属校の学校教育目標等を理解する。
- (2) 学校教育目標の実現のため、各教科等において育成する資質・能力を、
 - ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
 - イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
 - ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよく人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱で整理するとともに、各教科等の「見方・考え方」「育成する資質・能力」を理解する。
- (3) 児童生徒が身に付けた資質・能力を踏まえ、教科等の相互関連や学年・学校段階間の円滑な接続を意識した実践の手立てを考える。
- (4) 単元（題材）指導計画・評価計画を構想し、指導＆評価をする。

「児童生徒が、教科等の見方・考え方を働かせ、教科等が目指す資質・能力を伸ばす」
ことができる授業を実践して、学校教育目標(めざす子ども像)の実現をめざす！

授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》

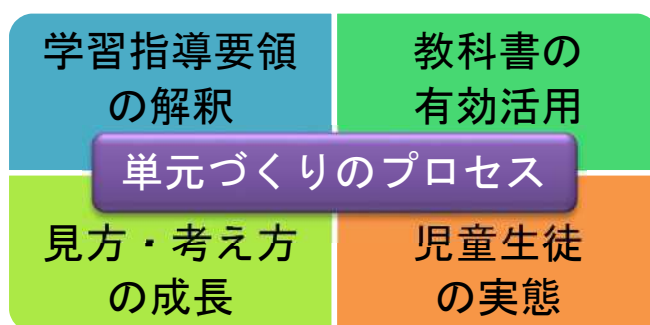
あなたは、授業の構想を立てるとき、何から読み（見）始めますか？

- ・教科書
- ・教科書の指導書
- ・これまでに実施された研究授業等の学習指導案
- ・学習指導要領（教科の解説）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・その他

1 番目に見るのは教科書ではないでしょうか。もちろん、それが間違いというわけではありません。教科書の教材は、一般性が高く、全国どこでも通用します。いつでも誰でも活用できるものです。しかし、目の前にいる児童生徒の実態にいつでも適しているとは言えません。

教科書に書かれている内容を教えることが大切なのではありません。学校で学んだことが、児童生徒の「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながる力、これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する力。つまり、これからの社会を生きていくうえで必要とされる資質・能力を育てる大きな使命が教師にはあるのです。そのためには、教科や単元(題材)等で育成する資質・能力は何なのかをしっかりと理解しておくことが大切です。

教科等で育成を目指す資質・能力が示されているのが「学習指導要領(解説)」です。学習指導要領を読み込み、何をいかに学んでいくかを考えることで、児童生徒の実態に応じた最適な単元(題材)や授業をデザインすることができます。また、教科書の意図することも理解でき、教科書を越えた単元(題材)を構想することもできます。



「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」より
齊藤一弥・高知県教育委員会（ぎょうせい）

①学校教育目標、めざす児童生徒像、研究主題との関わり

「学校教育目標」は、その学校が行う教育活動の究極の目的を実現するために達成すべき具体的な目標です。学校、児童生徒、保護者、地域が手を取り合い、心を一つにして取り組むものでもあります。したがって、教職員だけが知っていればよいというものではなく、その学校にかかわる全ての人々が理解し、協力していくものです。学校教育目標が実現された児童生徒の姿として表したものが「めざす児童生徒像」です。そして、その目標実現のために行う教育活動を実践・検証していくのが研究です。

ところで、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」は、学校教育目標を

設定する際の視点として次のように示しています。

- (1) 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- (4) 学校や地域の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

このことからわかるように、学校教育目標と毎日の授業は、切っても切り離せません。単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)で育てる資質・能力が学校教育目標等とどのように関わっているかを確認しましょう。

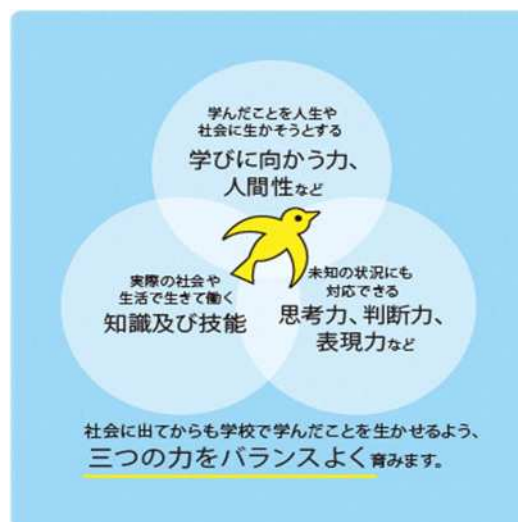
②単元(題材)名

単元名(教科によっては「題材名」「主題名」等、別の表記もある。以下これらをまとめて「単元(題材)名」と記す。)は、いくつかの教材や活動で意図をもって構成された一連の学習活動を表しています。学習指導要領に示されている内容を単元(題材)名にすることもありますが、できれば児童生徒が見いだした問いやその単元(題材)で追究する課題と結びつく単元(題材)名、児童生徒が取り組んでみたい魅力ある単元(題材)名を考えましょう。

③教科、単元(題材)で育成する資質・能力

この度の学習指導要領は、「内容ベース」から「資質・能力ベース」への転換が図られています。新しい時代を生きる児童生徒に必要な資質・能力が「知識及び技能」(教科によっては一部表現が異なる)「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理されました。「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を行えるよう、すべての教科でこの三つの柱に基づく児童生徒の学びを後押しすることが求められます。

資質・能力ベースの教育では、「何を知っているか」から「どのようなことが成し遂げられるか」「いかなる問題(課題)解決ができるか」へ視点を変え、これまでの授業を見つめ直すことが大切です。



文部科学省 HP より

④学習評価と評価規準

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(中央教育審議会)において、学習評価の改善の基本的な方向性が示されました。

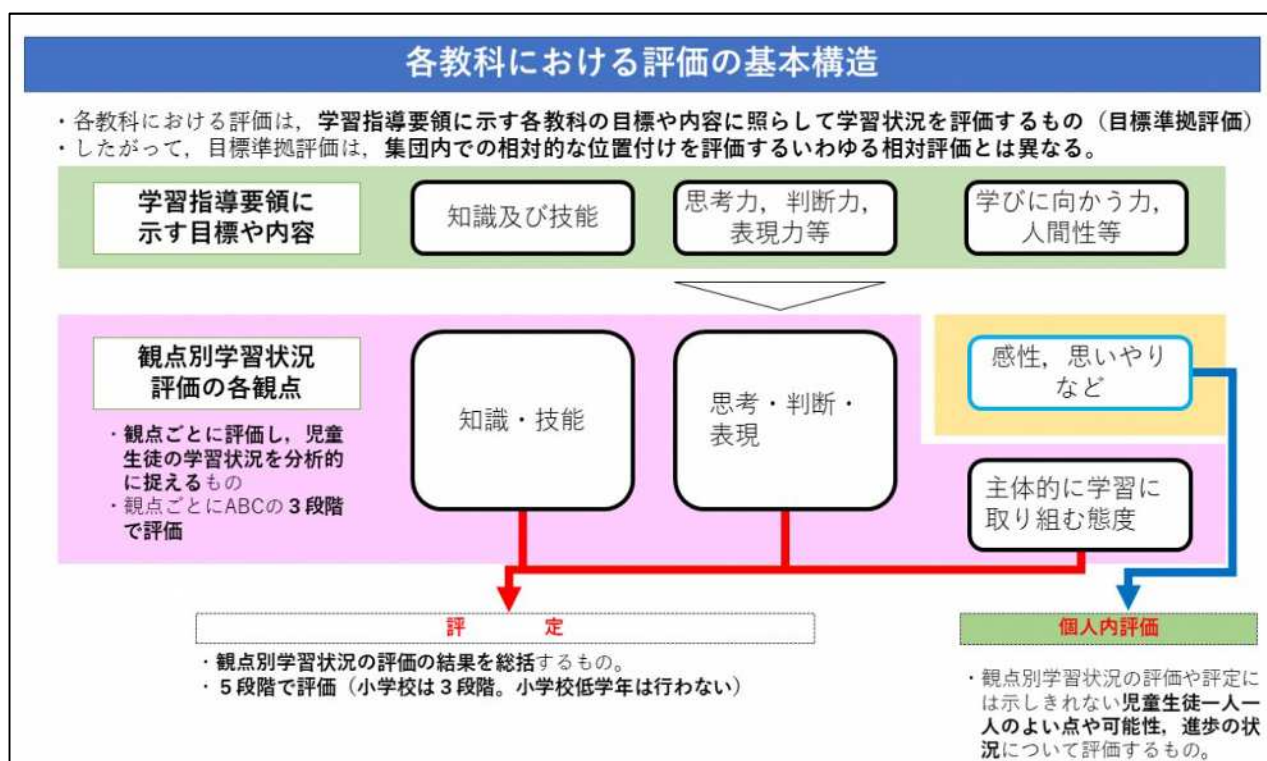
- ・ 児童生徒の学習改善につながる評価へ

- ・教師の指導改善につながる評価へ
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していく

このように、学習評価の主たる目的は、「児童生徒の学習改善」と「教師の指導改善」の2つです。学習評価を通じて、

- ・学習指導の在り方を見直すこと
- ・個に応じた指導の充実を図ること
- ・学校における教育活動を組織として改善すること

で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ります。「指導と評価の一体化」は、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。教師は、各教科等の目標の実現に向け、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や児童生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすために、学習評価を行います。



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 より （国立教育政策研究所）

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」があります。「観点別学習状況の評価」とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことです。「評定」は、各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、数値で表します。

観点別学習状況の評価は、学習指導要領で示された「育てたい資質・能力」の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って、それぞれ「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。

《知識・技能の評価》

- ・ 学習の過程を通じた個別の知識及び技能の習得状況
- ・ それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

《思考・判断・表現の評価》

- ・ 知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか

《主体的に学習に取り組む態度の評価》

- ・ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ・ 上記の粘り強い取組の中で、児童生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

児童生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点に課題が認められるかを明らかにすることは、具体的な学習や指導の改善につながります。

各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うにあたっては、観点ごとに評価規準を定める必要があります。

評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものであり、新しい学力観に立って児童生徒が身に付ける資質や能力の質的な面を表したものです。

単元(題材)の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて作成します。作成にあたっては、

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校、高等学校)」(国立教育政策研究所)を活用しましょう。



⑤単元(題材)で身に付ける資質・能力のつながり

全ての学習内容は、過去の学習(生活)からつながっており、そして、未来の学習(生活)につながっていきます。児童生徒が見方・考え方を働かせることができるよう、教師が課題提示の仕方や指導方法を工夫すれば、児童生徒は学びの連続性に関心を持って取り組みます。

そこで、単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)との前後のつながりを学年・校種を超えて見ておくといよいでしょう。例えば、小学校6年算数で学習する「比例」を見てみましょう。

⑥児童生徒の実態

授業では、児童生徒の実態把握は欠かせません。これから学習する内容について、興味・

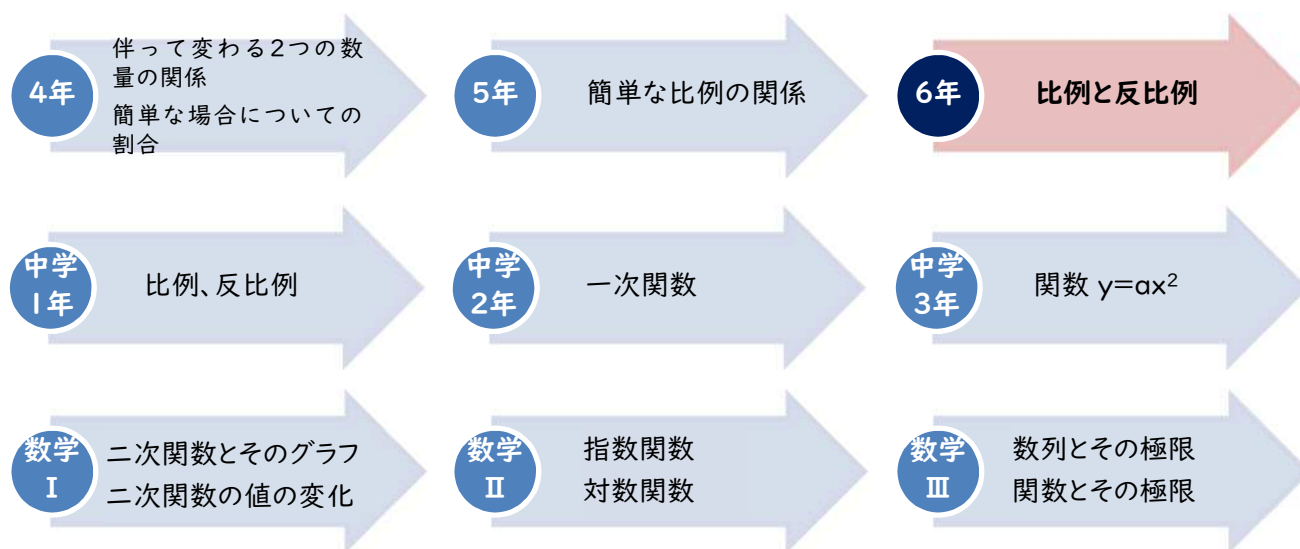
関心の程度はどれだけなのか、どのような問題意識があるのか、どのような資質・能力が身に付いているのか（何を学んでいるのか）、この単元(題材)で身に付ける資質・能力と比べ何がたりないのかなど、さまざまな視点から児童生徒の実態を知ることが大切です。そして、児童生徒と単元(題材)の学習対象との関わり方を考え、児童生徒自らが（または教師と共に）「問い」を見いだせるようにしていきます。

⑦見方・考え方を働かせている児童生徒

学習する内容は、これまでの学習で得られた知識、技能、思考力、判断力、表現力等を活用することで課題解決できるものがほとんどです。つまり、児童生徒自身が見方・考え方を働かせることによって、新たな学習に向かって主体的に取り組み、資質・能力をさらに伸ばしたり、新たな資質・能力を身に付けたりしていきます。

したがって、見方・考え方を働かせる経験を児童生徒が積み重ねる授業を構想することが大切です。単元(題材)の導入で「新しいことを勉強するよ」「勉強がだんだん難しくなっていくよ。しっかり勉強しようね」と、児童生徒への意欲喚起をする言葉がけを耳にします。この言葉がけを「これまでの勉強が役に立つかも」「この問題を解決するためには、これまで習ったことを上手く使えないかな」のような、児童生徒自らが見方・考え方を働かせたくなるように変えていきましょう。

授業の中で、困っている児童生徒に対して「ヒントカード」等を準備することがあります。それも支援の一つの方法ですが、むしろその単元(題材)と関係ある学習の足あとの掲示、ノート、教材等を自由に見たり触ったりできる環境を整えておきましょう。児童生徒は課題解決の過程で、必要に応じて自ら選択しながらその環境を活用していきます。



このように、「比例」は小学校6年だけで学習するのではなく、少なくとも小学校4年生から（基礎はもっと前から）学んでおり、数学Ⅲまで続いていきます。一つ一つが新しい学習内容ではなく、それぞれが関連し合っていることを理解し、見方・考え方が働く学習を構想しましょう。

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

児童生徒が、単元(題材)の学習対象と関わり「問い」を見いだせば、既に主体的な学習の一步を踏み出しています。ここで大切なことは、その問いがこれから学習するゴールと対応した問いであるかどうかです。児童生徒が、自らの問いの解決に一所懸命取り組んだとしても、ゴールと関係ない課題解決では、単元(題材)目標は達成されません。教師には、児童生徒が目指すべき課題へと導いていく大切な役目があります。

教師は、本時のねらい(単元(題材)のねらい)をしっかりと把握したうえで、児童生徒が、課題解決の目的や目標(ゴール)を意識し、課題の解決までの過程を思い描き、見方・考え方を働かせて課題解決できるような学習過程を展開します。

まとめや振り返りについては、児童生徒自身が「何ができるようになったのか」「どのような見方・考え方を働かせて解決できたのか」「どんな新しい見方・考え方を働かせることができるようになったのか」「理解したこと・できるようになったことをこれからどのように活用していけるのか」などを自覚できるようにすることが大切です。

ところで、「主体的・対話的で深い学び」の主語は誰でしょう。もちろん「児童生徒＝学習者」です。従来の学習指導要領は「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられていました。そのことは、教科等の縦割りを越えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」ととどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることを妨げていました。そこで、現学習指導要領では、まず学習する児童生徒の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力が整理されました。その上で、「何を学ぶか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、児童生徒の具体的な学びの姿を考えながら構成していくこととしました。児童生徒が「どのように学ぶか」の姿として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」です。

これを指導者側から見たとき、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、授業をどのように変えていけばよいかを考えていくこととなります。



文部科学省 HP より

主体的・対話的で深い学

びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、次の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されました。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- (2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

(3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

ここからもわかるように、例えば「対話的」と言ったとき、単に「個人思考」→「ペアでの話し合い」→「グループでの話し合い」→「全体での話し合い」のような話し合いの形式のことを言っているのではありません。「主体的・対話的で深い学び」とはどういう学びなのかをしっかりと理解し、その実現に向けての授業改善をしていくことが大切です。

⑨教師の評価言

あなたは、1単位時間の授業で、何分話していますか？教師として何を話していますか？教師が発するひと言で、児童生徒の学習活動が活発化することもあるれば停滞することもあります。教師は、常に自らの発問・発言を磨き、児童生徒を「主体的・対話的で深い学び」へと促し、導いていきます。教師の言葉がけの中でも、児童生徒への評価言は特に重要です。児童生徒の発言(考え)や行動の一つ一つにどのような評価を与えるのか、学習の場面や児童生徒の反応に応じた評価言を考えておくことも大切です。これらを積み重ねることによって、ふだんの授業の中で最適な評価言が自然に口から出るようになっていきます。

⑩単元(題材)の指導と評価の計画

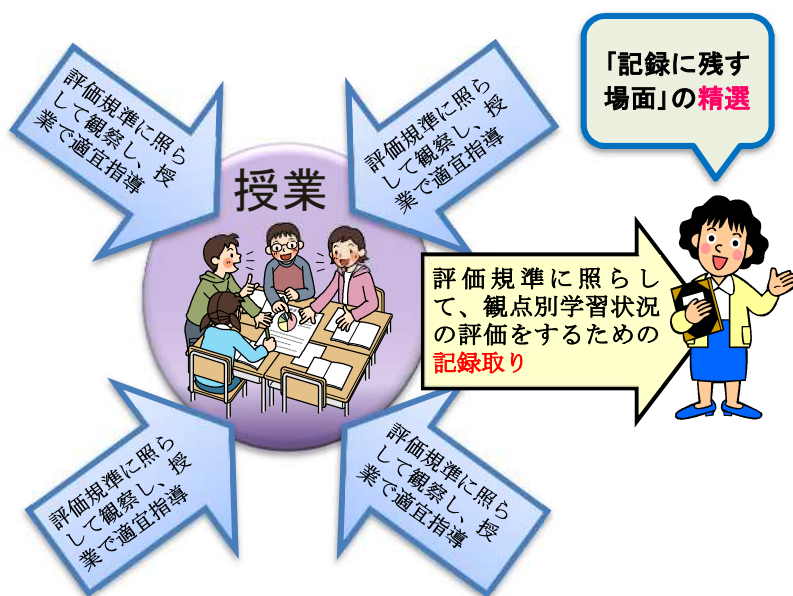
○ 目標(ねらい)・学習活動

各時間の目標・学習活動は、その時間で児童生徒がどのような資質・能力を身に付けるのか、そのためにどのような学習活動を行うのかが明確になっていることが大切です。

○ 学習評価(評価規準と評価方法)

これまでの学習評価については、次のような問題が指摘されました。

- ・学期末や学年末の事後的な評価に終始してしまうことが多く、学習評価の結果が児童生徒の学習改善につながっていない。
- ・「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。



そこで、このような課題や働き方改革を踏まえ、学習評価についての検討がなされ、改善されています。

例えば、毎時間、三つの観点全てについて評価したり、児童生徒全員について記録をとり総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的ではありません。単元(題材)の目標を分析し、各時間の目標(ねらい)にふさわしい1~2観点到評価項目を精選するとともに、記録に残す場面も精選することが大切です。そこで、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面や適切に評価するための評価方法等を単元(題材)構想時に計画します。詳しくは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)をご覧ください。

学習指導案

学習指導案の形式は決まっています。以前は、島根県教育センターから例を示していました。しかし、学習指導案の形を示すことで、以下のような課題も生じていました。

- ・どれも同じ画一的な学習指導案になっている。
- ・研究授業の1時間を中心に授業を構想している。
- ・学習指導案の作成が目的になり、教科書や指導書からのコピー＆ペーストが増えた。
- ・研究授業には力を入れるが、ふだんの授業改善への関心は大きいとは言えない。など

これらの問題への対応や、学習指導要領の趣旨に沿った新しい学習指導案が学校で開発されつつあることを鑑み、学習指導案の形式を提示することをやめました。その代わりに、学習指導案を作成する前(ふだんの授業をする前)に、必ず考えてほしい「授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》」を示すことにしました。まずは、この単元(題材)づくりを参考に、単元(題材)で育成する資質・能力を常に意識した授業を構想してください。そして、その構想に基づいて、学校(自分)独自の学習指導案を作成しましょう。

なお、さまざまな学習指導案が、書籍、研究会等でも紹介されています。そちらも参考にしてください。

参考文献

- ・学習指導要領(文部科学省)
- ・「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」齊藤一弥・高知県教育委員会
(ぎょうせい)
- ・国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」(平成29年度~令和3年度)「学習指導要領を理解するためのヒント」(国立教育政策研究所)
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)

授業づくりのプロセス構想シート（記入例）

教科等	算 数	学年	5 年	指導者	〇〇 〇〇
-----	-----	----	-----	-----	-------

学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題

心豊かでたくましく 仲間とともに進んで学ぶ子の育成

進んで学び 考える子

思いやりがあり 助け合う子

生き生きと活動し がんばりぬく子

単元(題材)名 (単元を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称)

比べ方を考えよう

単元(題材)で育成する資質・能力	または	単元(題材)の評価規準
【知識及び技能】(職業に関する教科は【知識及び技術】)		【知識・技能】(職業に関する教科は【知識・技術】)
・異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。		
・単位量当たりの大きさについて理解している。		
・異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。		
【思考力、判断力、表現力等】		【思考・判断・表現】
・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。		
・日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。		
【学びに向かう力、人間性等】		【主体的に学習に取り組む態度】
・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさをを用いて比べることのよさに気づき、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。		
・単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。		

単元(題材)で育成する資質・能力のつながり(小学校 → 中学校 → 高等学校) [..]は紙面上省略していることを表している

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	中学校
◆身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見いだしたり、量の大きさを表現したりすること。	【数の構成と表し方】 ◆簡単な分数に.. ◆一つの数を.. 【乗法】 ◆乗法の意味に.. 【長さやかさの単位と測定】 ◆長さの単位及び..	【除法】 ◆除法の意味に.. ◆除法と乗法や.. 【長さ、重さの測定と単位】 ◆身の回りの..	【簡単な場合についての割合】 ◆ある二つの数量..	【割合】 ◆ある二つの数量.. ◆日常の事象に..	【比例】 ◆伴って変わる.. 【比】 ◆比の意味や..	【関数】 ◆表、式、グラフを.. ◆関数として.. ◆関数を用いて..

児童生徒の実態 (単元(題材)にかかわる興味・関心、問題意識、単元学習前の資質・能力の差(違い)、重点指導内容など)

・長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきている。

・「このバスは混んでいる」「〇〇さんは走るのが速い」など、子どもたちは会話の中で、混み具合や速さについて異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり、比較したりして話をするのではない。

・時速 60kmと時速 50kmの速さを比べるときも、60 と 50 を比較しているだけで、異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり比較したりしているとは限らない。

指導と評価の計画

児童生徒の実態…… 前時までに身に付けた資質・能力、問題意識、困り感など

見方・考え方……… 見方・考え方を働かせている児童生徒の姿(児童生徒が、その時間の課題を解決するために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか)

手立てや支援……… 児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための教師の手立てや支援

時間	ねらい・学習活動と評価規準(評価方法)	各時間の構想		
1 2	面積も匹数も異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。 ・単位量当たりの大きさを用いて比べることの意味を理解し、混み具合を比べることができる。 知①(行動観察・ノート分析) ・混み具合の比べ方を、面積と匹数の関係に着目して図や式を用いて考え、説明している。 思①(行動観察・ノート分析) 著作 国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料 (東洋館出版社発行) 事例を参照	児童生徒の実態	・長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきている。	・会話の中で、混み具合について異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり、比較したりして話をするのではない。
		見方・考え方	・「部屋の中にいる人数が多ければ、混んでいる」とは言えない。部屋が広ければ混んでいないかもしれない。	・「部屋の広さが狭ければ、混んでいる」とは言えない。そこにいる人数が1人だったら、混んでいない。
		手立てや支援	・混み具合は、「異種の二つの量が必要であること」「どちらか一方の数量をそろえれば比べられること」「目的に応じた処理の仕方を工夫すること」について、子ども自身が気づくことができるようにする。(場面の工夫)	・混み具合を比較するためには、どんな量が必要なのかを見つけられるようにする。(発問の工夫)
3	「人口密度」の意味とその求め方を理解する。 ・人口密度の意味を理解し、人口密度を求めることができる。 知②(行動観察・ノート分析) ・人の混み具合の比べ方を、面積と人数の関係に着目して考え、説明している。 思①(行動観察・ノート分析)	児童生徒の実態		
		見方・考え方		
		手立てや支援		
4	単位量当たりの大きさを用いて、問題を解決する。 ・単位量当たりの大きさを用いて、2つの資料を比べることができる。 知③(行動観察・ノート分析) ※記録に残す	児童生徒の実態		
		見方・考え方		
		手立てや支援		

その都度、前時までの学習を踏まえ、記入していく。

自分にわかるメモ程度で記入する。

※この例は、説明のために詳しく記入している。

授業づくりのプロセス構想シート【道徳】（記入例）

教材名（出典）

雨のバス停留所で（わたしたちの道徳）

主題名

社会のきまりを守る

本時の内容項目の見出し

C 規則の尊重

内容項目の分析・理解
（一緒に考えたいポイント）

- 約束や法、きまりを進んで守る
- 法やきまり…個人や集団が安全にかつ安心して生活できる
- 進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たす

内容項目に係る児童生徒の実態

- 気の合う仲間や集団の中にきまりをつくる。
- 自分たちで決めたことを大切にしようとする。
- 身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。

期待する児童生徒の考え



- 一人一人が相手や周りの人の立場に立ってよりよい人間関係を築くことが大切。
- 社会集団を維持発展する上で守らなければならない約束やきまりがある。

★氷山の三層モデル
（畿央大学 島恒生教授考案）

教材

登場人物が感じたこと
や考えたこと

道徳的価値についての
考え方や生き方、
信念

①道徳的に変容した登場人物は、誰か。

(A) よし子

②(A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。

(B) いつもとは全然ちがう
お母さんのようす

③(A) が、変容を遂げて、どうなったか。(教材に書いてある様子)

(C) 自分がしたことを考え始めた

読解レベル（教材から読み取れること）

- ・みんな早く乗りたい、早く座りたいと思っている。
- ・母が強い力で肩を引っ張ったのは、一列に並ばなかったから。

道徳的価値レベル

みんな同じように願いや思いがある。
それらをきちんとかなえていくためにルールやきまりがある。

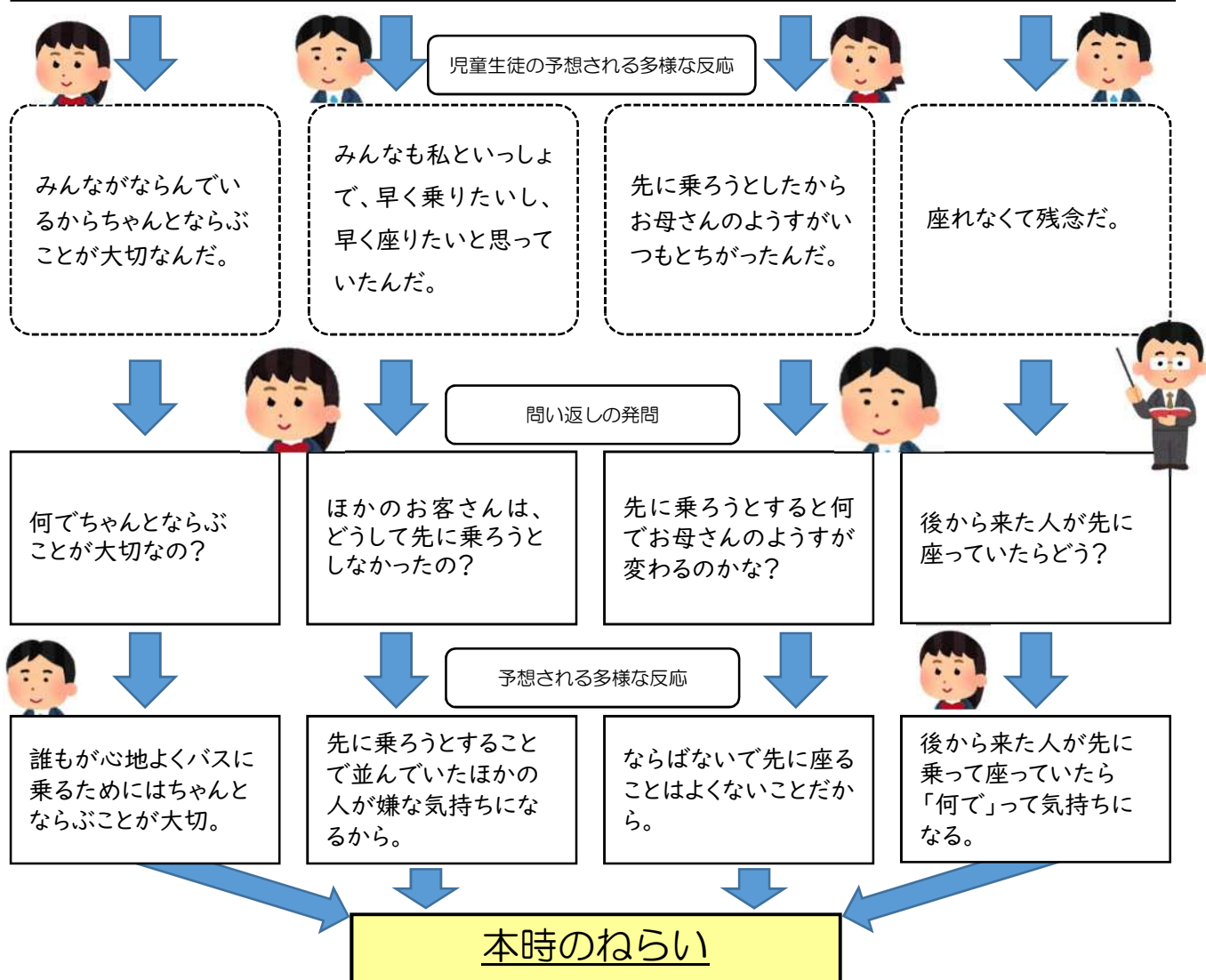
本時のねらいを明確にしましょう。

きまりを守ることは誰もが生活を送る上で大切なことに気づき、
社会のきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④

雨がふきつける窓を見ながら、よし子はどんなことを考えたのでしょうか？



※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例

①解決策の理由（動機）を問う発問

「どうしてそう思いましたか。」

②将来の結果（因果関係）を問う発問

「そうしたら、どうなると思いますか。」

③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問

「自分も同じような経験はありませんか。」

④可逆性の原理を用いた発問

「自分がそうされてもよいですか。」

⑤普遍性の原理を用いた発問

「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」

⑥互恵性の原理を用いた発問

「それで皆が幸せになれるか。」

⑦その他

「～は、どんな気持ちでしょうか。」

「～のしたことをどう思いますか。」

※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第2回）における岐阜大学大学院 柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編）

授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】（記入例）

指導の形態	生活単元学習	学部 学年	小学部5年	指導者	〇〇 〇〇
-------	--------	----------	-------	-----	-------

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

②児童・生徒の実態

5年生5名。小学部各教科1段階～3段階の内容を学習。それぞれが自分なりの手段で経験したことや思ったことを伝えようとするが、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でない。創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。様々な道具を扱う経験もある。1学期のお楽しみ会の活動では、遊びコーナーを自分たちで担当していろいろな人に喜んでもらえたことが、達成感につながった。教師の支援を受けながら、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある。

③単元で身に付けたい力＜自立と社会参加の視点から＞

- ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。
- ・みんながおまつりを楽しめることができるようにお店について考えたり工夫したりする。
- ・いろいろな友達や教師とかかわり思いや考えを伝えあいながら活動する。

単元名

1くみわくわくまつりをしよう



④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力（指導要領から抜粋）

資質・能力 教科名	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
生活	カ役割 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること	カ役割 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。
国語	ア(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと	A 聞くこと話すことウエオ ウ 見聞きしたことなどのあらましや、自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。 B 書くこと ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
図画工作	A 表現(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかくたり、作品を作ったりすること 〔共通事項ア(ア)〕 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと	A 表現(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと 〔共通事項ア(イ)〕 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと	進んで表現や鑑賞の活動に取り組む、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

- ・公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもてるようにしたり、お客さんが楽しむためのお店の工夫に気づくことができるようにしたりする。
- ・毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにする。
- ・新たな気づきにつなげることができるよう、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておく。
- ・教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるよう、基本的には見守り必要に応じて実態に添った支援を行う。



⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
生活	お店担当での自分の役割が分かって、活動している。	みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら活動している。	周りの人に自分から関わりながら進んで取り組んでいる。
国語	お店担当で必要な言葉ややりとり気配っている。	・お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 ・「いらっしやいませ」「ありがとうございました」などの挨拶をしている。 ・相手に伝わるような声の大きさを話している。 ・おまつりに必要なことをチラシや店の表示に簡単な文で表している。	積極的に友達や教師に言葉で伝え合おうとしている。
図画工作	いろいろな材料や用具を使って、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。	おまつりをイメージしながら、作りたいお店の表示を思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。	つくる楽しさを感じながら、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組んでいる。

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる（又は各教科等の見方・考え方を働かせる）児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主
1次 (2時間)	<u>○わくわくまつりの計画を立てる</u> ・内容や招待する人、役割を決める。	1学期にしたことを思いだして考える 「みんなが一番楽しそうだったのは〇〇のお店だったな。ルールを工夫したらもっと楽しめるかもしれない」 「今度は、〇年生の友達をよんだら、もっと楽しんでもくれるかも」		生活	
2次 (8時間)	<u>○お店の準備をする</u> ・それぞれのお店で必要ものを考える ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる <u>○公民館まつりに行って、お客さんが楽しめる工夫を探す</u>	児童同士で相談しながら考える教師とやりとりをしながら、一緒に準備をする ↓ 公民館まつりでの気づき 「大きな声で「いらっしやい!」と言ってる」 「このお店は呼び込みの人と、ゲーム担当の人がいるんだな」	生活 国語		
3次 (4時間)					
4次 (3時間)					
5次 (2時間)					

授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】（記入例）

学部・学年		指導者	
-------	--	-----	--

★学校教育目標、目指す幼児児童生徒像、研究主題

1 実態把握

(1) 子どもの生活や学習において、本人の得意なこと・頑張っていること・好きなこと、苦手なこと・困っていること、本人と保護者の願い、数年後(約3年)や卒業後の姿を想像する。

子どもの姿			
学年	1年	障がい	知的障がい・構音障がい
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと	本人の苦手なこと、困っていること ・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。 ・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。 ・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。 ・体の動きにぎこちなさがある。 ・給食を食べるのに時間がかかる。		
本人の願い	・〇〇(アニメのキャラクター)になりたい。 ・みんなと一緒に勉強したい。		
保護者の願い	・できるだけ、友達と一緒に勉強できる機会を多くつくってほしい。同学年の友達と仲良く過ごしてほしい。		
数年後の卒業後の姿	・自分の思いや考えを自分なりの表現で友達に伝えながら、様々な活動に取り組んでほしい。		

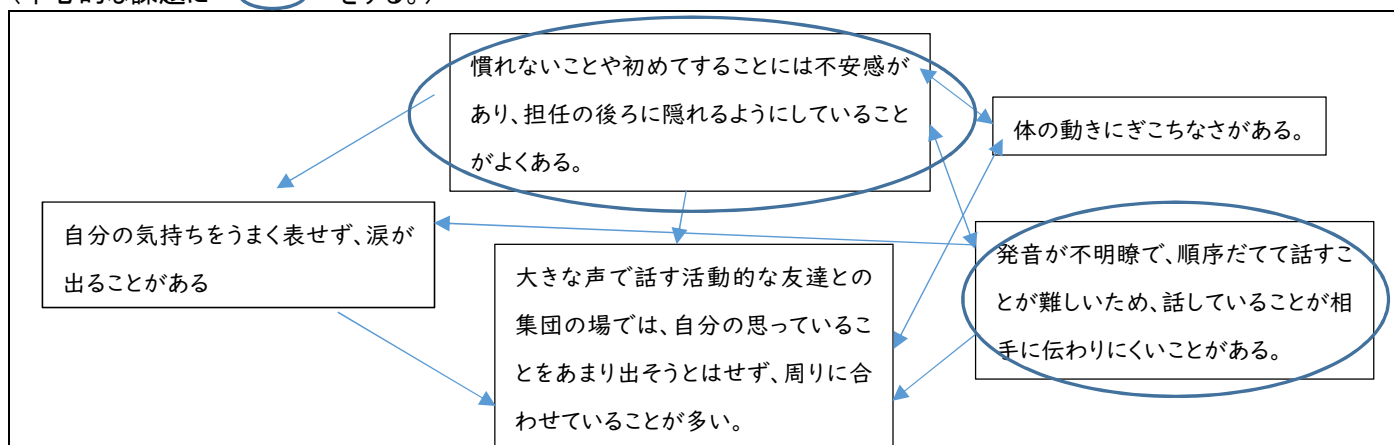


(2) 「自立活動の6区分27項目」に即して情報を整理し、子どもの全体像をとらえる。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・慣れないことや初めてすることには不安感があり、担任の後ろに隠れるようにしていることがよくある。 ・学習にはまじめに取り組み、言われたことはきちんとしようとする。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・大きな声で話す活動的な友達との集団の場では、自分の思っていることをあまり出そうとせず、周りに合わせていることが多い。 ・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。	・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうしたり、絵を描いたりしようとする。	・体の動きにぎこちなさがある。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。 ・給食を食べるのに時間がかかる。	・自分の気持ちをうまく表せず、涙が出ることもある。 ・発音が不明瞭で、順序だてて話すことが難しいため、話していることが相手に伝わりにくいことがある。

2 中心的な課題(この課題が解決できたら、現在の学習や生活が円滑になるもの)を考える。

(中心的な課題に をする。)



3 指導目標(ねらい)の設定

指導目標	選定された項目
・担任とともに、学級の友達や校内の教師とかかわろうとする姿を増やす。	心理的な安定(1) 人間関係の形成(1)(4)
・両唇をすばめたり閉じたりする動きに慣れる。	コミュニケーション(1)(2) 心理的な安定(3)



4 指導目標(ねらい)がどの項目と関連をしているか選定する。

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目	☐ (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	☒ (1)情緒の安定に関する事	☒ (1)他者とかかわりの基礎に関する事	☐ (1)保有する感覚の活用に関する事	☐ (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	☒ (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	☐ (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	☐ (2)状況の理解と変化への対応に関する事	☐ (2)他者の意図や感情の理解に関する事	☐ (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	☐ (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	☒ (2)言語の受容と表出に関する事
	☐ (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	☒ (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	☐ (3)自己の理解と行動の調整に関する事	☐ (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	☐ (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	☐ (3)言語の形成と活用に関する事
	☐ (4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事	☐	☒ (4)集団への参加の基礎に関する事	☐ (4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	☐ (4)身体の移動能力に関する事	☐ (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	☐ (5)健康状態の維持・改善に関する事	☐	☐	☐ (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	☐ (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	☐ (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

5 具体的な指導内容の設定

指導目標(ねらい)を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1～3つにまとめる。

具体的な指導内容	○遊びの中で、両唇をすばめたり閉じたりする動きを経験する。 ・ピンポン玉転がしゲーム ・シャボン玉 ・ブクブク競争 ・口をしっかりと動かしてみよう 等	○担任と好きなことを通してたくさんやりとりをする。 ・〇〇(アニメのキャラクター)グッズや新聞づくり	○担任と一緒に、友達や校内の教師とかかわる経験をする。 ・一緒に遊ぼう ・おかしやさんをひらこう
指導場面	・自立活動の時間	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等	・自立活動の時間 ・各教科等 ・昼休み等
本人の得意なこと・頑張っていること 好きなこと	・好きな大人や友達があり、その相手に自分から笑顔でかかわろうとする。相手のすることを真似するなどして合わせようとするので、友達からも好かれている。 ・アニメが好きで、その話を自分から慣れた大人に話そうとしたり、絵を描いたりしようとする。 ・学習にはまじめに取り組み、言われたことはきちんとしようとする。 ・体を動かす遊びが好きで、慣れた相手と鬼ごっこなどを楽しんでいる。		

6 指導目標の評価

担任とかかわりの中で、自学級でも交流学級でも、やりたいことを表したり、興味のあることを中心に意欲的に取り組む姿がとて増えた。そして、その姿を目にした友達が「Aちゃんってこんなこと好きなんだ」と声をかけてきたり、一緒に活動を楽しんだりすることが増え、その中で担任を介さなくても友達や同じ学年部のS先生、教頭先生に向かって大きな声で話す姿も見られるようになってきた。特に、「おかしやさんをひらこう」では熱心に取り組み、今まであまりかかわろうとしなかった友達にも「次は〇〇つくるよ」と自分から積極的に声をかける姿があった。自立活動の時間における指導の中では、自分で両唇の動きを意識しながらストローやピンポン玉などを扱おうとしたり、両唇音の発声をしようとしたりするようになった。まだ確実ではないが、「こうしたほうがうまい」という感覚はつかんでいるようである。普段の会話の中では、特に両唇の動きを意識している様子はうかがえない。ただ、いろいろな活動を思い切り楽しみ自分の思いを表すことができるようになったことが、声の大きさや表情や動きの豊かさにつながり、以前よりやり取りはスムーズになった。それでも伝わりにくいこともあるが、その際は本人が「だーからー〇、〇、だよ!」とゆっくり言い直すようになり、その際は、両唇音やウ段の音で唇の動きを意識して話そうとするようになってきた。

授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】（記入例）

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題				
児童生徒名	A	B	C	D
指導目標 (長期目標)	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながら活動に取り組む。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを自分から友達に伝えることが増える。 ○衣服の前を認識して、着替えをする。	○相手のペースに合わせて活動を行ったり、気持ちを考えようとして、相手に意識をむけることが増える。 ○身体力を入れる部位を意識して、正しい姿勢で座ることができる。	○友達とやりとりをしをしながら、自分の気持ちをコントロールして活動に取り組む。
指導内容	○関心のある事柄について、楽しみながら取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○関心のある事柄について、友達や教師とやりとりをしながら、話し合い決めていく経験を積む。	○安んずることができる身近な人との間で、関心のある出来事等について話し合ったり、力を合わせたりして、人々に関わる楽しさを感じ自信が高まるようにする。 ○衣服の背面を示すマークを認識して、着用する衣服をマークが見えるようにひろげる。	○友達を認識して協調的な動作ができるようにする。 ○日常の出来事や友達との会話をイラストを使って振り返り、相手の話を聞きながら話ができるように意識する。 ○姿勢が整いやすいように椅子を調整したり、姿勢保持のチェックポイントを確認できるようにする。	○関心のある事柄について、意欲的に取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○自分を落ち着かせる方法について考え試して、自分にあった方法を見つける。
育成すべき 資質・能力との関連	○遊び、人との関わり、役割（生活・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） ○簡単な指示や説明を聞いてそれに応じた行動をする、体験したことなどについて伝えたいことを考える（国語：聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等）	○基本的生活習慣、人のかかわり、役割（生活・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等） ○体験したことなどについて伝えたいことを考える、挨拶や簡単な台詞を表現する（国語：聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等）	○登場人物の行動や場面の様子を想像する、登場人物になったつもりで音読したり演じたりする（国語：読むこと 思考力・判断力・表現力等） ○各教科等における 学びに向かう力・人間性等	○相手に伝わるような話し方（国語：聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等） ○人との関わり、役割、きまり（生活 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等）
学習や生活の中で見られる長所やよき興味・関心	○様々な活動に自分なりのイメージや思いをもち意欲的に取り組んでいる。	○テレビのバラエティー番組に興味をもっている。 ○決められた役割に自分からコツコツと取り組む姿がある。	○図鑑を読むことやアニメのキャラクターに興味がある。 ○自分の好きなことや知っていること、考えたことについて周りの教師や友達に話したいという気持ちがある。	○ゲームなどの勝敗のある活動が好き意欲的に活動することが多い。 ○発想も豊かで、学習活動の中でも自分のアイデアを活発に発言し友達を引っ張っていく姿がよくみられる。



児童生徒名	A	B	C	D
単元の指導目標	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにこにこゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。	○相手の思いや考えに意識をむけながら、にこにこゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。
単元名	「にこにこゲーム大会を開こう」 ・交流・学級または校長先生、教頭先生を招待してゲーム大会をする。			
主な活動内容	・輪投げ			

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際の6点（幼稚部は7点）を意識しましょう。

- ア 主体的に取り組む改善・克服の意欲を喚起・発達させるための側面を更に伸ばす
 エ 自ら環境と関わり合う（幼稚部のみ）自ら環境を整える力自己選択・自己決定を促す
 キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。



児童生徒名		A		B		C		D	
単元の指導目標		○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにこの大会の活動に取り組む。		○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。		○相手の思いや考えに意識を向けながら、にこのゲーム大会の活動に取り組む。		○自分の気持ちをコントロールしながら、友達の活動に取り組む。	
手立て(単元を通して)		- 準備や話し合いの中で自分の考えが友達と異なっており、解決策を見つけたしにく - い時には、児童の気持ちを受けとめつつ、自分や友達の考えに基づく活動を体験して考えることができるようにする。 - 友達と話し合う中で、友達の前で自分の考えを振る返る経験をする。 - 友達の考えを伝え、伝えることで自分の考えが意識できるようにする。		- 話し合いの内容に応じて、思いや考えを表現しやすいように、選択肢を入れた質問をしたり、仲の良いAとペアでの活動を設定したりする。 - 振り返りの時は、友達の様子を思い出しながら自分自身の振り返りができるように、ワークシートの設問を工夫する。		- 友達への意識が高まるように、話し合いの時は、友達の様子を意識を向けようという問いかけ（「Cの考えをどう思ったか。」など）をする。 - 振り返りの時は、友達の様子を思い出しながら自分自身の振り返りができるように、ワークシートの設問を工夫する。		「ここにこのゲーム大会への期待感がある中で、気持ちをコントロールできる経験を積めるようにする。児童が「ゲーム大会まであと何日？」というように日程表を確認したり、招待状を渡す活動を設定して、招待をする教職員がゲーム大会を楽しみにしている様子を見たりする。 - 活動中に気持ちが不安定になった時には、教師がその気持ちを認め見守りつつ、活動にもどるきっかけとなる言葉がけをしていく。	
日時	活動内容								
6/5 (月)	○1組ゲーム大会の計画を立てる ・どんなゲーム大会にしたいかを考える ・招待する教職員を決める	手立て 記録							
6/12 (月)	○みんなが楽しめる輪投げゲームを考える ・全体でみんなが楽しめる方法を考える ・ペアでその方法を詳しく考える - ペア(AとB)(CとD)	手立て ・相手の考えを受けとめて、自分の考えを言う様子を認め、その姿を伝えることで、自分の変化に気づけるようにする。 記録 ・Bの考えと異なることがあり、納得ができず活動が止まることがあったが、教師とのやりとりをすることでBの考えを受け入れる様子が見られた。		・自分の考えをAに伝えていっている様子やAへの問いかけの様子を称賛することで、考えや気持ちを伝える良さに気づくようにする。 ・テレビ番組のゲームを参考にした考えをAに伝えた。Aが納得できるように提案した考えを変えようとする様子が見られた。		・意見が相反した時には、Dに「どうして、そう思うか。」確認の質問をするように促し、相手の考えに気づけるようにする。 ・Dの考えと同じところがあることに気づく様子が見られ、Dの考えに賛成していた。		・楽しいゲームにしようかとがんばって考えている姿やCの考えを受けとめた様子が見られた時は称賛をして、気持ちを安定させて活動をしていることへの自信につなげる。 ・自分の考えを認めさせようと言葉が荒くなることがあったが、自分の考えがCと似ていることをCが伝えることで、気づいて協力する様子が見られた。	
：	：	手立て 記録							

児童生徒名		評価			
児童生徒の評価	A				
	B	・自分の考えを友達に伝えることで、好きなテレビ番組で行われているゲームの雰囲気や輪投げゲームに取り入れることができてとても嬉しそうだった。招待する教職員からゲーム大会について質問を受けた時には、どのように伝えようか考える時間をとりながら、最後まで答える様子が見られた。			
	C				
	D	・みんなが楽しめるゲーム大会にしようと思意的に取り組んだが、時々、自分の考えを友達に認めさせようと言葉が荒くなったり、考えが異なると準備が進まなかったりして気持ちが不安定になることがあった。ゲーム大会当日は、自分で気がついて招待した教職員の座を準備したり、笑顔でゲームを楽しんだりした。			
指導に対する評価	評価の視点		①活動内容	②活動量	③活動の流れ
			④教具	⑤活動の場の配置	
			⑥指導目標の妥当性		
	①自分達が招待したい教職員を招待して、ゲーム大会を行うという活動の流れは、目的意識をもちやすく児童が意欲的に取り組むことができた。この活動の流れは、今後も利用できるもので2学期で計画をしたい。				
	③ゲーム大会の概要を決定して、招待状を作成して渡した。このことで招待状を渡した時に招待する教職員からの質問に答えることができて、コミュニケーションをとることができた。この流れは良かった。				
④輪投げゲームの道具は既製品を使用した。既製品を使うことで児童はゲームの具体的なイメージをもつことができて、児童が工夫を加えることができた。					
⑥単元の指導目標は、各児童についていって良かった。Aは、自分の思いを相手に伝え、相手の思いを受けとめる経験を継続して積んでいくことが必要だと考える。					

研究授業振り返りシート

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

【事前】	【目標】
【授業メモ】 【参考にしたい点】 1 「身に付けた資質・能力を踏まえる」点 2 「単元(題材)の目標に迫る」点 3 その他	《効果的な手立て・働きかけ》
	
【事後】	

【今後の授業実践や課題研究に反映したいこと】

学習評価

「学習評価」は、児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために、その在り方が極めて重要です。観点別学習状況の評価を行う際に必要となる評価規準等、「学習評価」を行うにあたって参考となる資料を紹介しますので、ぜひご確認ください。

「学習評価の在り方ハンドブック」は学習評価全般について示しています。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」は教科ごとにあります。国立教育政策研究所のホームページからダウンロードが可能となっています。

「学習評価の在り方ハンドブック」

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する資料」



小・中学校編

高等学校編

小学校

中学校

高等学校

(国立教育政策研究所 HP からダウンロード可)

「特別支援学校 学習評価参考資料」

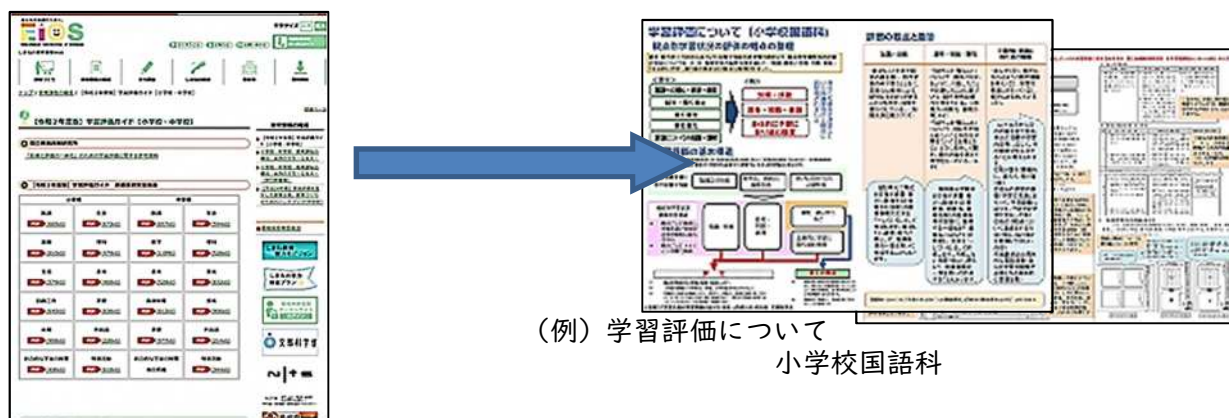


小学部・中学部

高等部

(文部科学省 HP からダウンロード可)

「学習評価ガイド」(県教育委員会)



(例) 学習評価について
小学校国語科

EIOS しまねの教育情報 Web > 教育課程の編成 > 学校評価ガイド

研修情報システムの操作方法

※ここに表示している画面は、実際のものとは異なることがあります

《研修情報システム MyPage》

・ログイン

https://kensyu.pref.shimane.lg.jp/webrsv/index_personal_training_history.php

又は

<https://x.gd/kensyumypage>

ログイン ID 職員番号(8桁)

パスワード 自分で登録したもの

※初期パスワードは職員番号

・主に使う項目

数値は、教育センターからのお知らせ（未読）の数を表しています

【マイキャビネット】

- ・教育センターからのお知らせ一覧表示
- ・関係資料の取得、回答（提出）、共有
- ※研修日の少なくとも3週間前からは、こまめに確認してください

【アンケート】

- ・研修受講後のアンケート回答

【欠席・遅刻・早退・変更 申請】

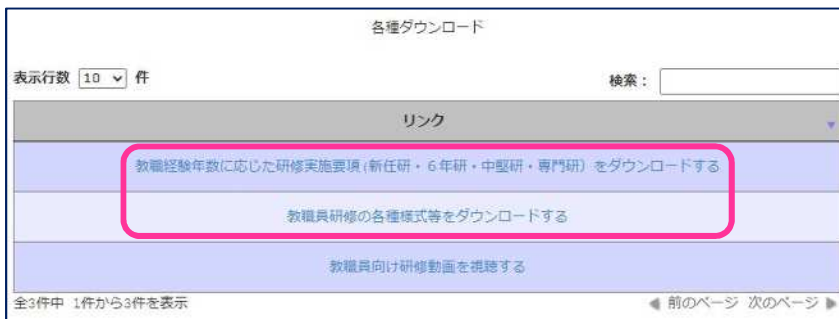
- ・教育センター研修を欠席等する場合は、管理職を通じて研修担当者に電話連絡
- ・学校 Page から所属長の承認を受ける
- ・申請期限は、研修日より3週間以内

研修に関する資料のダウンロード方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「各種ダウンロード」をクリック



③ 当該リンク先をクリック



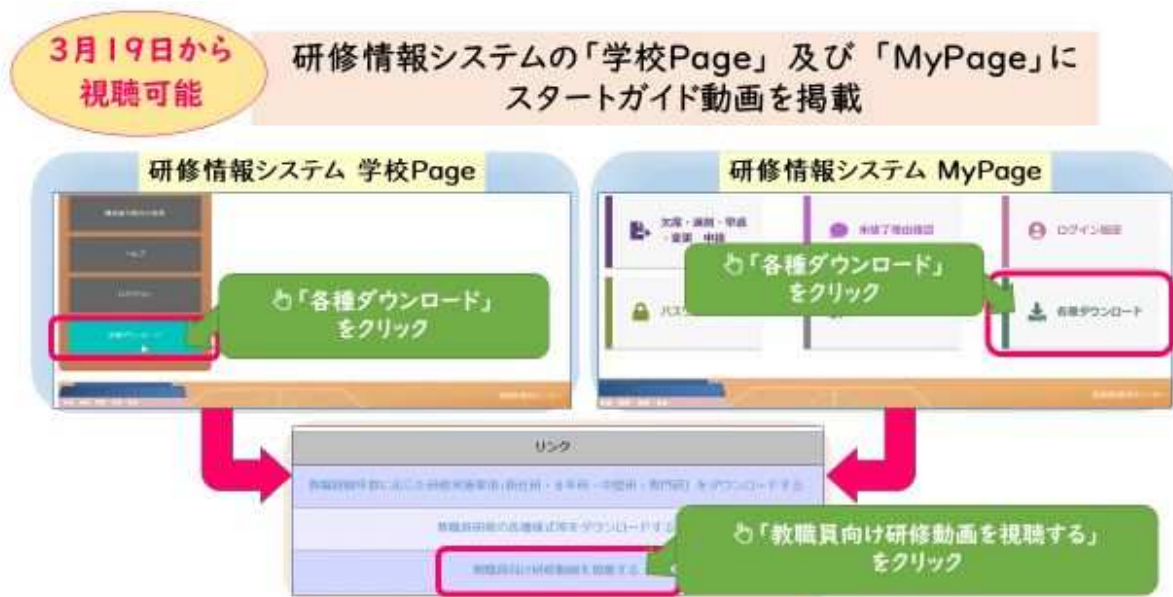
④ 受講している研修をクリック



⑤ 必要な資料をダウンロード

研修動画の視聴方法

【スタートガイド動画】



【オンデマンド研修動画】

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「研修動画」をクリック

表示行数 10 件

研修番号	研修名	視聴開始日	動画	視聴キー
999	教職経験6年目研修《実務教員》第Ⅱ回教育センター研修	-	動画1: 視聴 動画2: 視聴 動画3: 視聴 動画4: 視聴	動画1: keiken 動画2: keiken 動画3: keiken 動画4:
1195	中間教諭等資質向上研修《教諭》第Ⅱ回教育センター研修2	-	動画1: 視聴 動画2: 視聴	動画1: keiken 動画2: keiken

③ 研修名を確認し、 関係のリンク先をクリック

この動画を表示するには視聴キーを入力してください。

視聴キー

.....

確定

④ ③に表示されている視聴 キーを入力

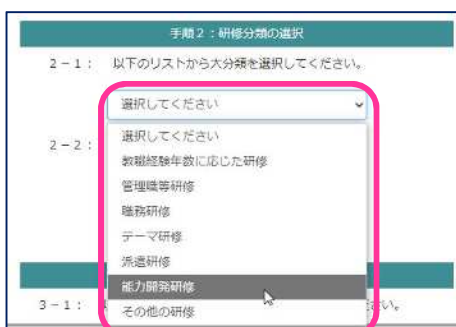


研修申込の方法

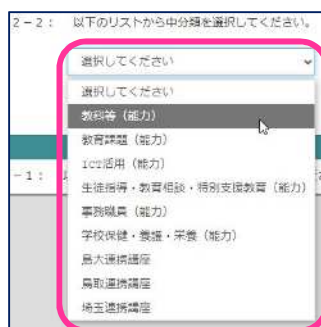
① 研修情報システム MyPage にログイン



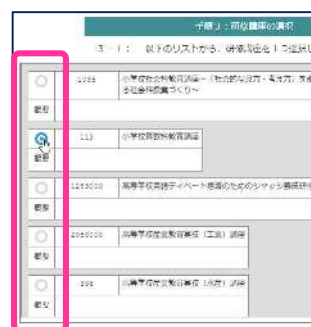
② 「研修申込」をクリック



③ 該当の研修分類を選択



④ 該当の項目を選択



⑤ 申し込む研修を選択



⑥ 「確認一覧へ追加」をクリック

⑦ 申込者の名前・研修講座を確認

※ 必要に応じて「備考」を記入



⑧ 「登録実行」をクリック

※ 申込を完了するには、管理職の承認が必要です

受講者が教育センター宛に提出する資料等の提出方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



② 「マイキャビネット」をクリック

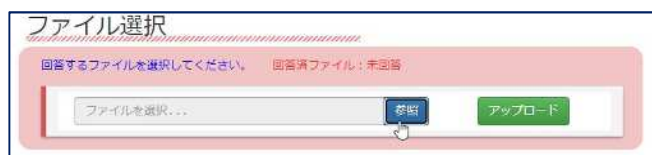


【関係資料の取得】

- ③ 受講者宛の「書類名、ファイル名」を確認
- ④ 「取得」をクリックし、当該資料をダウンロード

【関係資料の提出】

- ⑤ 「回答」をクリック



- ⑥ 「参照」をクリックし、提出ファイルを選択

- ⑦ 「アップロード」をクリック

【受講者同士で共有された関係資料の取得】



- ⑧ 「共有」をクリック

- ⑨ 見たい資料の「取得」をクリック

- ⑩ 全ての資料を見たいときは、「一括ダウンロード」をクリック

研修アンケートの回答方法

① 研修情報システム MyPage にログイン



②「アンケート」をクリック

120 分以内に回答もしくは一時保存

※120 分を超えると、入力したものが消えます



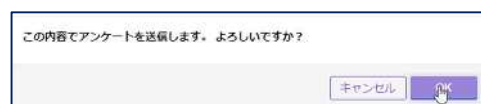
③該当するアンケートの 「回答する」をクリック



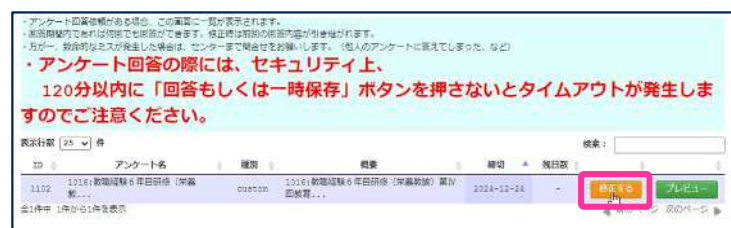
④必要事項を記入



⑤アンケート入力後、「回答もしくは一時保存」をクリック



⑥ 回答、一時保存いずれの 場合も「OK」をクリック



⑦ 保存した内容を修正したいときは、「修正する」をクリック

校長(学校代表)が教育センター宛に提出する計画書・報告書等の提出方法

《研修情報システム学校 Page》

※管理職又は管理職から任命された担当者のみ操作することができます

① 研修情報システム学校 Page にログイン

※学校 ID、パスワードは、教育センターから所属長に
お知らせしています

② 処理者名を選び、「選択」をクリック

③ 「報告書提出」をクリック

報告書研修一覧

研修分類	研修番号	研修名	確認
職務研修	535	健康教育(学校保健)研修【オンデマンド】	確認
職務研修	6550000	小・中学校研究主任研修	確認
教職経験年数に応じた研修	101	初任研2学期学校訪問指導(提出用)	確認
教職経験年数に応じた研修	415	初任者研修	確認
教職経験年数に応じた研修	605	新規採用普通教諭研修	確認
教職経験年数に応じた研修	940	新規採用非常勤教諭研修	確認
教職経験年数に応じた研修	1065	フォローアップ研修(教諭・2年目)	確認

④ 当該研修の「確認」をクリック

※ 該当する研修が見つからないときは、表示行数を増やしたり、
「次のページ」をクリックしたりしてみる

報告書提出

研修番号	研修名
415	初任者研修

提出ファイル選択

ファイルを選択...

参照 提出

⑤ 提出ファイル選択の「参照」をクリック

⑥ 提出ファイルを選択

⑦ 提出ファイル選択の「提出」をクリック

誰もが、誰かの、
たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない
互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる
そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、
自分サイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる
未来への原動力

人が人のたからもの
誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

研修に役立つ資料

資料	リンク先	
教職経験 6 年目研修の手引	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]> 教職経験年数に応じた研修の実施要項ダウンロードする	
様式 (Word ファイル)	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]> 教職員研修の各種様式等をダウンロードする> 教職経験6年目研修	
教職経験 6 年目研修 スタートガイド動画	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード] >教職員向け研修動画を視聴する	
過去の課題研究レポート	研修情報システムMyPage[各種ダウンロード]> 教職員研修の各種様式等をダウンロードする> 教職経験6年目研修	
学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm	
「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料	https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidou/siryou.html	
特別支援学校 学習評価参考 資料	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/1386427.htm	
しまねの教育情報 Web (EIOS: エイオス)	http://eio-shimane.jp/	
Well-being な生き方を目指して ～個別最適な学びと協動的な 学びの一体的な充実～	https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/seikabutsu/well-being.html	
独立行政法人教職員支援機構 (NITS: ニッツ)	https://www.nits.go.jp/	
NISE 学びラボ - 独立行政法人 国立特別支援教育総合研 究所 (NISE: ナイセ)	https://www.nise.go.jp/nc/	
StuDX Style (スタディーエックス スタイル)	https://www.mext.go.jp/studxstyle/	